

登録日 2018/2/27

レジメン名 Gas025

腫瘍名 胃がん

申請医師 消化器外科

投与スケジュール

nab-PTX-W+RAM				28日毎 × PDまで						
				1コース		2コース				
				1	8	15	22	29	...	(day)
①	デキサート 生理食塩水	6.6 mg 50 mL	点滴 15分	↓		↓		↓		
②	デキサート 生理食塩水	6.6 mg 50 mL	点滴 30分		↓					
③	サイラムザ 生理食塩液	8 mg/kg 250 mL	点滴 30分	↓		↓		↓		
④	生理食塩液	50 mL	点滴 5分	↓		↓		↓		
初回60分、2回目以降30分に速度短縮可 サイラムザ投与後フラッシュ(全開投与可)										
⑤	生理食塩水	50 mL	点滴 5分	↓		↓		↓		
アブラキサンのプライミング用 Day1、15投与時 側管										
⑥	アブラキサン 生理食塩液	100 mg/m ² 100 mL	点滴 30分	↓	↓	↓		↓		
Day1、15投与時 側管										
⑦	生理食塩水	50 mL	点滴 5分	↓	↓	↓		↓		
アブラキサン投与後フラッシュ(全開投与可) Day1、15投与時 側管										

注意事項

【適応】切除不能進行・再発胃がん(2次治療以降)
 * 胃癌治療ガイドライン2018年版には、推奨レジメンが使用困難な時に、必要な患者に使用できるレジメンとしてカテゴリー化されている。

【投与上の注意】

- ・アブラキサン投与時には、インラインフィルターは使用しない(アルブミン結合製剤のため、目詰まりを起こすため)
- ・サイラムザ投与時には、フィルターを使用する。
- ・アブラキサンは特性生物由来製品に該当することから、施用記録の保存は他の特定生物由来製品に準ずる。
- ・サイラムザは室温保存(30℃以下)では4時間以内、冷所保存(2~8℃)では24時間以内に使用する。
- ・サイラムザには創傷治癒遅延作用があり、創傷治癒に影響する合併症の際には使用を中止する。
- ・Grade1、2のインフュージョンリアクションが出現した際、カロナールの追加やデキサートの増量、減速なども考慮する。

【調製上の注意】

- ・溶媒は必ず生理食塩水を使用すること(生食20mL/Vで溶解する)
- ・アブラキサンの溶媒として使用した生理食塩水の残液は全てボトルから抜き取り、破棄する。
- ・空になったボトルにアブラキサンを溶解した懸濁液を入れる。
アブラキサン懸濁液は調製後速やかに使用する。または、冷所(2-8℃)に遮光保存して8時間以内に使用する。

【投与延期、減量基準】

- ・アブラキサンの添付文書上、D法の延期、減量基準を参照すること。
- ・サイラムザの適正使用ガイドの延期、減量基準を参照すること。

参考文献

- 1) European Journal of Cancer, 91, 86-91 (2018).
- 2) サイラムザ添付文書
- 3) アブラキサン添付文書